

【基本方針】

住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する

【年間目標】

- ① NO 事故を目指す
- ② 『どこにも負けない、ふるさとらしいホスピタリティ』を目指す
- ③ 良質なサービスの提供
- ④ 専門的な認知症ケアの提供
- ⑤ 家族との連携
- ⑥ 地域との連携
- ⑦ 目標稼働率 97%を目指す

【実践報告】

- ① NO 事故を目指す
 - ・ 1年間の発生事故件数は 39 件であった。平成 29 年度は 57 件であり、大幅な減少が出来た。また、服薬関係の事故は 6 件であり、薬の取り扱いに対する意識の向上を図ることが出来たと思われる。しかし、転倒の事故は 17 件と多く発生しており、骨折に至り、神戸市への報告を要した事故は 2 件発生した。
- ② 『どこにも負けない、ふるさとらしいホスピタリティ』を目指す
 - ・ 言葉遣いや態度に関して、職員同士の声掛けもあり、以前に比べ改善できている。職員の意識も向上している。現状の状態維持のために、継続した指導や話し合いが必要と思われる。
- ③ 良質なサービスの提供
 - ・ 食事に関しては、入居者様の状態に合わせた形態での提供をすることが出来た。水分摂取に関しては、嗜好に合わせた物の提供をすることが出来た。歩行などの活動量に関しては、雨季や冬季など、季節によって差があったが、外出行事などを毎月計画実行し、屋外での活動を支援した。
 - ・ 感染症に関しては、1月にインフルエンザの感染者が、入居者に 2 名、職員に 1 名発生した。
 - ・ チームケアの実施に関しては、週に 1 回のユニットミーティングや月に 1 回の会議を開催し、支援内容を話し合う機会を持った。
 - ・ 職員のスキルアップに関しては、認知症介護実践者研修に 2 名の職員を参加。神戸市認定介護士を 1 名取得することが出来た。また、毎月の会議の中で勉強会を開催し、基本的な介助方法や感染症、認知症ケアなどの内容を行った。
 - ・ 定期的なサービスの評価に関しては、7月に第 3 者評価を受け、ご家族へのアンケートも実施した。

④ 専門的な認知症ケアの提供

- ・3ヶ月毎の介護計画の見直し、6ヶ月毎のセンター方式を用いたアセスメントを実施することで、ご入居者主体の計画の見直しが行えた。

⑤ ご家族との連携

- ・昨年同様、季節行事へご家族の参加を促し、多くのご家族に参加して頂いた。また、家族会を年2回（11月 3月）開催し、意見交換を行った。

⑥ 地域との連携

- ・運営推進会議は、2ヶ月に1回開催した。ご入居者の地域交流に関しては、福祉センターで開催する夏祭り、文化祭への参加や、塩屋キッズ音楽隊の訪問等を行った。また、地域で活動するボランティアの導入をし、毎月2組のボランティアに活動をしていただいた。
- ・管理者による地域ケア会議やグループホーム連絡会、垂水区在宅医療介護サポートセンター開催の会議などの参加は定期的にできた。また、地域の事業所の集まりである、Tラインへの参加も出来た。

⑦ 目標稼働率97%を目指す

- ・平成30年度の稼働の結果は、94.4%であった。入院者は8名おられた。入院の原因疾患は、大腿骨骨折、てんかん発作、心筋梗塞、脳梗塞、肺炎、胃潰瘍であった。入院延べ日数は332日であった。

平成30年度月別稼働状況													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
平均利用人数	18	18	18	18	18	16.6	17.9	17.5	15.4	15	15.1	16.2	17.0
平均稼働率	100	100	100	100	100	92.2	99.8	97.4	85.3	83.3	84.1	90	94.4

【苦情受付】0件